

2020 年度高森町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

町内では、水田面積約 350h の約 5 割強が主食用米、残りが転作作物として施設園芸や飼料作及び不作付け地となっている。

農家の高齢化や、鳥獣害による不作付け地が今後も増加する事が予想される。
今後は、集落単位での農地集積を進めながら不作付け地の減少を図っていく。

2 作物ごとの取組方針等

地域の 350ha（不作付け地を含む）の水田について、地域適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、野菜を転作作物の中心に位置付け、作物生産の維持拡大を図る事とする。また飼料作物については、作付けを担い手に集約すると共に、二毛作の作付及び耕畜連携（資源循環の取組）の取り組みを推進する。

（1）主食用米

需要に応じた生産を推進する為、地域に提示された生産目安を利用した作付け推進、並びに平地と山間部での高低差 300m といった条件下における品種の選定や新たな品種への取組みに努め、農業経営の安定化を推進する。

（2）非主食用米

ア 飼料用米 集荷施設の確立を図って行く。生産技術習得のため先進地視察研修。

イ WCS 用稲 専用品種での取組みや先進地視察研修等を行っていく。

ウ 加工用米 他の戦略作物との比較をした上で推進を図る。

（3）麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については販売目的での作付けが無く、取り組む場合は新たな投資を余儀なくされるのが実情である。

飼料作物については、産地交付金を活用して、二毛作の作付けや耕畜連携の推進を図ることで、作付け面積を拡大していく。

（4）そば、なたね

そばについては、排水対策を徹底することにより、産地交付金を活用し生産拡大を図る事により農家経営の安定化や自給率の向上に繋げる。

（5）高収益作物（園芸作物等）

産地交付金を活用し、野菜や花き類等の更なる生産拡大を図り農業経営の安定化や自給率向上に繋げ、今後の面積維持・拡大を図る。また、なす（ひごむらさき）を地域の重点品目に位置付け作付を支援することで面積拡大を図って行く。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定 面積 (ha)	2020 年度の作付目標 面積 (ha)	2021 年度の作付目標 面積 (ha)
主食用米	145 ha、719 t	172 ha、853 t	172 ha、853 t	172 ha、853 t
WCS 用稲	22	23	23	23
飼料作物	25	26	38	27
その他地域振興作物	8.4	9.0	11.5	9.5
野菜 (なす)	5.2	5.2	6.8	5.5
・花	3.2	3.8	4.7	4.0
・その他	0	0	0	

※主食用米の当年度及び 2021 年度の目標値において使用した単収は 496kg/10a

※主食用米の 2020 年度作付目標値において使用した単収は 496kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度 (実績)	目標値
				2019 年度	2020 年度
1	なす (ひごむらさき)	重点品目の作付助成 (基幹)	作付面積 (ha)	0.6	1.0
2	飼料作物	飼料作物担い手等 加算 (基幹)	取組面積 (ha)	6.0	10.8
			反収 (kg/10a)	900	1,050
3	飼料作物	飼料作物二毛作加算 (二毛作)	取組面積 (ha)	8.7	11.5
			水田利用率 (%)	76	100
4	飼料作物 WCS 用稲	耕畜連携の取組 (資源循環、水田放 牧) (基幹)	取組面積 (ha)	15.7	16.5
			実施率 (%)	68	70
5	露地野菜 その他野菜	地域振興作物への助 成 (基幹)	作付面積 (ha)	0.28	1.0
6	施設野菜 野菜・花卉	ハウス施設作物への 助成 (基幹)	作付面積 (ha)	7.4	11.2

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。